

# タイル打診検査にMR

## 報告書作成業務を半減

長谷工コーポレーションと

一環だ。

アウトソーシングテクノロジ  
ー（東京都千代田区、茂手木  
雅樹社長）は、日本マイクロ  
ソフトの技術協力を得て、マ  
ンションの外壁タイル打診検  
査のためのMR（複合現実）  
ソリューション「AR 匠  
RESIDENCE」を開発

した。従来2人1組で実施し  
ていた打診検査が1人でも可  
能となり、また報告書作成業  
務の労力が半減し、全体で約  
30%の効率化が期待できる。

両社は、日本マイクロソフトと連携して最先端のデジ  
タル技術を活用した建設・不動  
産業界における生産性改革を  
推進しており、「AR 匠  
RESIDENCE」もその

同技術を利用した外壁タ  
イル打診検査は、マイクロソフ  
トのヘッドマウントディスプ



Mixed Reality 空間で記録された  
検査結果を表示



作業イメージ

レー「HoloLens2」  
を装着して実施する。

従来のタイル打診検査は、  
2人1組で実施し、1人が打  
診検査作業、もう1人が検査  
によって発見された不具合箇  
所の記録や写真撮影を担って  
いる。同技術では、事前に物  
件情報を登録し、現場で登録  
情報と点検記録をひも付ける  
ためにマーカーで位置合わせ  
をすると、「HoloLens2」  
を通して建物の立面図  
・平面図が表示される。作業  
者はその表示に基づいてタイ  
ル打診検査を実施し、タイ  
ルの浮きなど不具合箇所があっ  
た場合はMR空間上に記録す  
ると、位置情報とともに登録  
される。これにより、1人で

検査と記録両方の作業を実施  
でき、また入力したデータか  
ら自動で報告書が作成される  
ため、建物診断業務全体の約  
30%削減が可能となる。

今後の取り組みについて、  
長谷工コーポレーションの檜  
岡祥之取締役常務執行役員は

「7月から長谷工リフォーム  
の建物診断に導入し、まずは  
現場で使いこなすことから始  
めていく。あわせて、これま  
での実証ではマンションの開  
放廊下での使用を想定してい  
たが、2021年にはそれ以  
外にも利用拡大できるよう検  
討を進めていく。また取得し  
たデータを利用した差分分析  
による劣化状況の可視化など  
も検討している。生産性改革  
を進めるとともに、管理組合  
に分かりやすい報告をするこ  
とで価値の向上に努めてい  
く」と説明した。

